



2024年5月13日

各 位

株式会社ハーモニック・ドライブ・システムズ  
代表者名 代表取締役社長 長 井 啓  
(コード番号: 6324 東証スタンダード市場)  
問合せ先 代表取締役 丸山 顕  
執行役員 小野 牧子  
TEL. 03-5471-7810

## 新中期経営計画(2024~2026年度)に関するお知らせ

当社は、2024年度を初年度とする3カ年の新中期経営計画(2024~2026年度)を策定しましたので、その概要を以下のようにお知らせいたします。

### 記

#### ■ 前中期経営計画の目標と実績

2021年5月に公表いたしました前中期経営計画(2021~2023年度)に於いては、世界的な新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け停止していた自動化投資の回復、半導体の需要増加に伴う設備投資の増加など、2021年度及び2022年度に於いては、産業用ロボットや半導体製造装置用途を中心に高い水準で需要が推移しました。当社グループでは「お客様の期待値に応える価値の提供」をQCDSの基本方針として、当社製品の需要拡大に確実に応えるべく、自動化投資を中心とした生産能力の増強、サプライチェーン体制強化による安定した部材調達、生産管理のデジタル化など生産改革を確実に実施し、品質の向上、コスト低減、リードタイム短縮に取り組んでまいりました。

一方、2023年度の当社グループの事業環境は、中国製造業の設備投資や半導体の設備投資に慎重な姿勢がみられたことに加え、当社グループのお客様における当社製品の在庫調整に時間を要したため、受注が急減し、事業環境は大変厳しいものとなりました。受注低迷の影響を受け、国内各工場の稼働は低い状態となりましたが当社はこれをチャンスと捉え、今後の当社製品の需要増加を見据えた更なる生産性の向上、品質面の向上を目的に、今しかできない改革・改善に取り組んでまいりました。2023年度の連結業績は売上高、利益額ともに計画を下回る実績となりましたが次なる需要拡大期に向けた土台を構築しております。

	2023年度(目標)		2023年度(実績)	
	金額(百万円)	売上高比率(%)	金額(百万円)	売上高比率(%)
売上高	70,000	100.0	55,796	100.0
営業利益	15,000	21.4	124	0.2
親会社株主に帰属する当期純利益又は純損失(▲)※	10,500	15.0	▲24,806	—

※ 連結子会社Harmonic Drive SEIに係るのれんの減損損失281億59百万円を計上したことにより、2023年度は親会社株主に帰属する当期純損失248億6百万円となりました。

## ■ 長期ビジョン、マテリアリティ

当社グループは、「モーションコントロール技術で社会の技術革新に貢献する」という不変のミッションを推進しております。当社グループが手掛けるメカトロニクス製品、精密減速装置の市場は、EV化、手術支援ロボットなど、新たな「社会の技術革新」に大きく貢献しており、今後もその需要は拡大していくことが予想されます。また、世界的な人手不足が顕在化するなか、自動化が加速しており、協働ロボットに加え、新たな市場として「ヒト型ロボット」の需要増加が見込まれております。これらの成長機会を確実に取り込み、成長基盤をより強固にするために、新たな長期ビジョン(2030)を掲げ、長期ビジョンを実現するための重要課題としてマテリアリティの見直しを行いました。

**ミッション** モーションコントロール技術で社会の技術革新に貢献する

**長期ビジョン** 未来と調和するトータル・モーション・コントロールのベストプロバイダー

**マテリアリティ**

1.人的資本の  
価値最大化

2.お客様の期待値に  
応えるQCDSの実現

3.環境の変化に適合した  
新技術・新技能への  
挑戦と創出

4.企業活動を通じて  
持続可能な社会に  
貢献する

5.時代に調和  
した  
経営基盤の構築

## ■ 中期経営計画

ミッションと長期ビジョンを達成するためには、新たな価値の創出と変革の2つが重要であると考え、①何をしていくのか、②そのためには何が必要なのか、③サステナビリティ、の3つの観点から基本方針を定め、対処すべき課題に取り組んでまいります。

### 新中期経営計画で対処すべき課題

#### 「価値創出と変革」への挑戦

##### ①収益性を重視した全事業の持続的な成長

- ・新たな成長ドライバーの開拓
- ・顧客期待値に応えるQCDS+Speedの徹底

##### ②環境変化に適合できる経営資源の強化

- ・個の成長と多様な脳力が発揮され、尊重される組織の実現
- ・資本効率を意識した成長投資
- ・財務基盤及びガバナンス強化

##### ③未来に続く企業価値向上への取り組み

- ・ネットゼロの推進
- ・多様な人財の登用、採用
- ・お客様の環境負荷低減を促進する製品の開発

■ 新中期経営計画の目標値(連結)

	2023 年度(実績)		2024 年度(予想)		2026 年度(計画)	
	金額 (百万円)	売上高 比率(%)	金額 (百万円)	売上高 比率(%)	金額 (百万円)	売上高 比率(%)
売上高	55,796	100.0	58,500	100.0	90,000	100.0
営業利益	124	0.2	2,700	4.6	15,000	16.7
親会社株主に帰属する当期純 利益又は純損失(▲)	▲24,806	—	2,000	3.4	11,000	12.2

■ 目標とする経営指標

当社グループでは、持続的な成長と長期的な企業価値向上の実現に向けて、中期経営計画(2024～2026年度)における当社グループの重要な経営管理指標として、売上高営業利益率を15%以上、売上高に対する“キャッシュ創出の能力指標”として売上高EBITDA率25%以上を新たに目標に加えしました。また、重要な財務指標として自己資本当期純利益率(ROE)に加え、ROICを新たな指標としました。加えて、比較すべき資本コスト(WACC)の水準を9%程度と想定し、自己資本当期純利益率(ROE)及びROICの目標を10%以上と定め、投下資本の運用効率を意識した経営を実践し、資本収益性の向上を図ってまいります。

■ 配当政策

当社は連結配当性向を30%とし、業績に応じた利益配分を行うことによって、持続的な配当額の拡大を目指してまいります。

※ 本資料に記載の内容は、本資料発表日現在において入手可能な情報や将来に対する様々な仮定に基づいた事項であり、上記の中期経営計画の実現を保証するものではありません。

以上